

学年	高2	教科	国語	科目	古典探究	単位数	3
教科書名	高等学校 古典探究 (数研出版)			副教材名	読んで見て覚える 重要古語単語 315 三訂版 (桐原書店) 新精選 古典文法 (東京書籍) 基本セミナー 漢文入門 (浜島書店) 漢文名文選 故事成語編 (筑摩書房) 古典文法習得のためのマスターノート (数研出版) 読み解く古典2 (浜島書店)		
コース・クラス	N進学 (理系)						

I. 目標

- 1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を養成し、伝え合う力を高める。
- 2 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。
- 3 書かれたものに触れることで、思想や人間のありようを知る。

II. 授業のねらい

- 1 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深める。
- 2 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めること。
- 3 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めること。
- 4 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させること。
- 5 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けること。

III. 授業の進め方

- 1 文章内容の理解を主とし、発問形式による教授方法やグループ学習によって学習を進める。
- 2 副教材を適宜活用し、確認テストを実施する。
- 3 古文では、『新精選 古典文法』を活用して文法事項を学習し、漢文では、『漢文名文選 故事成語編』等を使用する。

IV. 学習上の留意点

- 1 教科書の新しい単元に入る際は、予習として意味調べや漢字の書き取り、作品の通読を行うこと。
- 2 授業中には、板書や必要な情報をノートに書くこと。
- 3 配られた資料は、ノートに貼るかファイリングをし、必ず保存管理すること。
- 4 毎時教科書、ノート、副教材を授業前に準備し、机の上に置いておくこと。

V. 定期試験

- 1 学期 中間試験 : 授業内で扱った文章+初見問題、推量・推定系の助動詞、敬語法
- 1 学期 期末試験 : 授業内で扱った文章+初見問題、推量・推定系の助動詞、敬語法
- 2 学期 中間試験 : 授業内で扱った文章+初見問題、希望の助動詞、比況の助動詞、識別問題
- 2 学期 期末試験 : 授業内で扱った文章+初見問題、抑揚形、仮定形、識別問題
- 3 学期 学年末 : 授業内で扱った文章+初見問題

VI. 評価の方法

- 1 定期試験・進研模試…授業内容をしっかりと理解し、それを応用することができる。
- 2 小テスト…計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。
- 3 提出物…積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り組むことができる。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4 5	日記『更級日記』より「東路の道の果て」 ・推量／推定系の助動詞① (む・むず・けむ・らむ・なり) ・音便 ・文学史 (日記) 故事「江南橋為港北枳」 ・句法：疑問／反語，願望，使役 ・比喩の理解	・小テスト ・提出物 ・定期試験	・推量系の助動詞の用法を覚え，本文訳に生かすことができる。 ・文学史を学ぶことで日記文学の性質と歴史的価値を学習し，『源氏物語』や他の平安文学作品との関りを理解する。 ・音便の学習を通じて，日本語の言語的特徴についての知識を深める。 ・正確な書き下し文をもとに，句法に注意した口語訳ができる。 ・作中の比喩を解釈し，漢文の文体に親しむ。 ・基礎敬語を理解し，人物関係に注意しながら状況を理解し，正確な口語訳ができる。 ・掛詞に注意して，和歌を解釈することができる。 ・歴史の流れを理解し，登場人物の心情を読み取る。 ・作中の漢詩の意味を理解し，人物の心情を読み取る。 ・問題演習に取り組み，高1から夏までの基礎事項を確認する。
	6	説話『十訓抄』より「大江山」 ・敬語法 (敬語の種類) ・和歌の修辞 (掛詞)		
	7	史伝『史記』より「四面楚歌」 ・句法：詠嘆，否定		
	8	『読み解く古典2』問題演習 ・推量／推定系の助動詞② (べし・じ・まじ・まし・らし・めり) ・希望の助動詞 (たし・まほし) ・比況の助動詞 (ごとし)		
二学期	9	歴史物語『大鏡』より「南院の競射」 ・敬語法 (二重尊敬・二方向への敬意) ・文学史 (歴史物語)	・小テスト ・提出物 ・定期試験	・古文特有の敬語の使い方を理解し，正確な口語訳ができる。 ・貴族階級の人々の思想を理解し，正確に状況を把握できる。 ・春秋および戦国時代の状況をふまえ，儒家の思想を他の思想と比較して理解することができる。 ・時代背景に配慮して登場人物の心情を理解し，作品を読み味わうことができる。 ・平安期の女流文学を中心に，歴史の流れの中で各文学作品が成立してきた背景を理解する。 ・古代中国の歴史的背景を理解する。 ・それぞれの思想家の考えが反映された文章を読み，儒家との比較の中でそれぞれの特異性を理解することができる。
	10	思想『論語』『孟子』『荀子』より各一篇 ・句法：疑問／反語		
	11	物語『源氏物語』より「光源氏誕生」 ・文学史 (物語／平安期全般)		
	12	思想『老子』『莊子』『韓非子』 ・句法：願望，選択，二重否定，比較		
三学期	1	近世随筆『玉勝間』より「師の説になづまざること」 ・終助詞 ・副助詞	・小テスト ・提出物 ・定期試験	・近世の文体に親しみ，近世随筆において言及される我が国の文化の特徴について考えることができる。 ・随筆文における筆者の主張とその根拠を，論の展開に注意して正確に読み取ることができる。 ・漢文の句法を押さえつつ，寓話の意図を読み取り，正確な読解をすることができる。 ・入試に対応できるだけの，古典分野の基礎力の定着度を，問題演習を通じて確認する。
	2	逸話三篇		
	3	『読み解く古典2』問題演習		

※ シラバスの内容 (時間や事項) については，理解度やその他の都合により変更することもあります。